

1. めざす学校像

- ・校訓「人に愛される人 信頼される人 尊敬される人になろう」に基づき、「相互敬愛・思い遣り」の心を育成する

2. 中期的目標

(1) 近畿大学への進学

- ① 近畿大学の教育内容に係る理解の深化
- ② 柔軟な思考と学び方を身につけた社会に貢献できる自立した学習者の育成と近畿大学への進学

(2) 生徒育成の徹底

- ① 挨拶・礼儀の重視
- ② 自律して考え・判断し・行動できる生徒の育成
- ③ 各個人の権利の尊重、思い遣りの心・平等の心の育成
- ④ 学校行事・課外活動を通じ自主性・自発性の伸長、相互の友情と連帯感の深化、自己肯定感の醸成
- ⑤ 生徒会および各種委員会活動の活性化
- ⑥ 愛校心の育成

(3) 学習指導の徹底

- ① 授業の質を高め、生徒の授業満足度を高める
- ② 校内の全ての教育活動は大学・社会で活躍できる「後伸びする力」を身に付けた「グローバル人材の育成」を基本として実施する
- ③ ICTを利活用した教育改革を推進し、近大附属の教育 method を確立し、目指す学習活動、学習評価の明確化をはかりながら、高度情報社会の中に生きる生徒の適応力とモラルの向上を目的とした教育を展開する
- ④ 新しい教育改革にも対応して、日々に於けるより質の高い教育活動を展開する
- ⑤ 学習過程の評価重視に係る検討・実践・観点別評価の研究

(4) 進路指導の徹底

- ① 「大学附属校としての教育」がより充実したものになるよう検討を重ねるとともに、有為な人材が一人でも多く近畿大学に進学できるようにする  
【上記(1)に記載】
- ② 特進クラスに於ける(難関)国公立大学志望者への進路指導の徹底と合格支援を行う
- ③ 各群・各学年・各教科担当者との連携を強化する
- ④ 生徒が大学進学後も意欲的に学びを継続できるよう適切な学部・学科を主体的に選択させる

(5) 健全な経営状況の維持

- ① 事業活動収支差額の安定的な黒字化
- ② 受験者数の確保と定員の充足

[以上(1)から(4)の目標を群別・学年制のもと、それぞれが連携しつつ、特色のある教育を展開する]

3. 令和4年度の取組み内容および自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
(1) 近畿大学への進学	①近畿大学の教育内容に係る理解の深化 ②柔軟な思考と学び方を身につけた社会に貢献できる自立した学習者の育成と近畿大学への進学	①a)近畿大学各学部の特長・内容の理解[高校] b)近畿大学オープンキャンパスへの参加[高校] c)各コースの進路目標にあわせた近畿大学各施設を用いた見学会・体験実習の実施[中高] ②a)コミュニケーション力・発信力・主体性の育成[高校] b)平素の授業を通じての基礎学力の定着[高校] c)年間計画に基づく上記①および②(a)(b)の実施[高校]	①a)単なる学部説明に終始しない工夫 b)高校1年生全生徒の参加 c)近畿大学学園各施設を活用した各コースにあった見学会・体験実習の実施 ②a1)自らのキャリアデザインを1年次に2000字論文、2年次に計5000字論文に著し、3年次に卒業論文8000字以上を完成 a2)iPadを利活用した工夫、コミュニケーション力・発進力・主体性養成プログラムを実施 b)各科目定期試験に於いて一定点数以上(素点+形成評価点) c)年間計画の実施と進学率	①a)理工学部、法学部、薬学部、経営学部、文芸学部、総合社会学部、農学部、経済学部、生物理工学部、建築学部、国際学部、情報学部で学部・学科説明の他、模擬講義を実施し、生徒の興味・関心を喚起した(延べ1600名の参加:満足した旨の回答80%)【オンラインまたは対面での実施】→次年度も継続して実施する b)8月20日に実施・参加[1010名参加](第1学年全生徒の参加:満足した旨の回答77%)→次年度も第1学年全生徒の参加とする c)近畿大学各施設に於いて年間計画に基づき実施→次年度も継続して実施する ・農学部「2022集まれ、アグリ村」に於ける計8回の農学部講師陣による講義を受講(全学年希望者対象)[高校]→コロナ禍のため全てオンライン実施 ・文芸学部「感性学入門」講座に於ける計3回の文芸学部文化デザイン学科講師陣による講義を受講(全学年希望者対象)[高校]→高校校舎にて9月対面実施 ・生物理工学部現地見学・説明会(1年4J生希望者対象)[高校]→8月29日に現地で対面実施 ・近畿大学奈良病院見学[中学医薬コース1年]→コロナ禍のため中止 ・医学部見学・体験実習[中学医薬コース2年・4年]→コロナ禍のため中止 ・近畿大学奈良病院での看護体験実習[中学医薬コース3年]→コロナ禍のため中止 ・薬学部見学実習[中学医薬コース1年]→コロナ禍のため中止 ・薬学部薬用植物園見学[中学医薬コース2年]4月28日に実施 ・湯浅農場農業体験通年プログラム[中学全コース2年]5月10日・7月12日・3月10日に実施 ・農学部奈良キャンパス体験学習[中学全コース1年]6月11日に実施 ・南紀体験学習(水産研究所に於ける学習を含む)[中学2年・3年希望者]7月25日～27日に実施 ・理工学部夢サイエンス[中学3年希望者]8月29日に実施 ・原子力研究所見学[中学2年希望者]8月29日に実施 ・生物理工学部実験実習[中学全コース1年]9月1日に実施 ・理工学部実験実習[中学英数コースアドバンス1年]3月6日に実施 ・近畿大学英語村でのE-Challenge体験学習[中高全学年希望者]3月13日～15日・8月22日～9月10日の期間に実施 ②a1)1年次にテンプレート3ステップを活用した2000字論文を完成(進学コース・6ヵ年課程英数コースプログレス生徒)、2年次にテンプレートを活用した5000字論文を完成(進学コース・6ヵ年課程英数コースプログレスコース生徒)→卒業論文8,000～10,000字の完成・提出714名)→次年度も継続して実施する a2-1)iPadを用いたクラス別プレゼンテーションの実施(進学コース1年および6ヵ年課程英数コースプログレス1年[4月]→次年度も継続実施する a2-2)計画通り5月から原則として週1回「KINDAI LEADERS 研修」を開催、『地方創成』について問題解決型学習方式を導入の上、生徒が主体的に学習。コロナ禍で課題を抱えている地域企業の、問題解決型商品開発プログラムにオンライン・対面で取り組んだ。(大いに役立った旨の回答70%) b)各科目一定点数未滿者(素点+形成評価点)→補習・再試験による指導→次年度も継続実施する c)近畿大学への現役進学率[対卒業生数]63.7%【令和3年度に比して-1.9%】
(2) 生徒育成の徹底	①挨拶・礼儀の重視 ②自律して考え・判断し・行動できる生徒の育成 ③各個人の権利の尊重、思い遣りの心・平等の心の育成 ④学校行事・課外活動を通じ自主性・自発性の伸長、相互の友情と連帯感の深化、自己肯定感の育成 ⑤生徒会および各	①a)朝の挨拶指導の徹底・[中高]週番の活動による挨拶運動[中] b)2ヶ月毎の生活目標を設定[高] ②a)登校予鈴時刻までの着席と遅刻時の入室手続きの徹底[中高] b)登下校時に於ける通学路の片側通行の指導徹底[中高] ③人権教育室と連携強化し、年間計画に基づく人権教育室発信のワークシートによるホームルームの実施[中高] ④a1)クラスまたはコース単位	①a)朝の登校指導の実施[中高] b)2ヶ月毎の生活目標を校内の様々な場所に掲示し、全校生徒が一つの共通目標を意識して協同的に過ごす[高] ②a)予鈴8時25分段階での担任教員による着席確認と遅刻情報の校内および家庭との共有[中高] b)登下校時に於ける指導強化地点での登下校指導[中高] ③年間計画に基づく毎学期、学年毎の人権(権利・平等など)に関するワークシートを用いた課題の活用[中高] ④a1)生徒による校外学習の計画立案	①a)自発的に挨拶できる習慣の定着[中高] b)学校の教育目標の実現に大きく寄与[中高] ②a)登校時間の厳守と遅刻管理システムによる保護者との情報共有ができたことにより、学校と家庭の両面から遅刻生徒への指導が実現。基本的な生活習慣の定着および遅刻生徒への支援の働きかけができた[高] b)強化地点の登校指導を実施することにより、生徒一人ひとりがマナーを意識し実践する習慣を身につけるよう働きかけることができた[中高] ③年間計画に基づき実施し、人権意識の向上に係る指導の充実を継続[中高] ④a1)iPad等を活用した情報収集と、クラスまたはコースの目的に沿った校外学習内容を設定・実施[高] a2)感染対策を十分に講じて文化クラブの発表会・有志によるダンスやバンドなどのパフォーマンスを披露・学級ではジェットコースターやメリーゴーラウンドなどのアトラクションを手作りするなど数々の力作・力演が発表された[高]【実施後の生徒アンケートの満足度76.8%】[高] b)年間を通じ教科学習とクラブ活動との両立を実践。また、各クラブ員による挨拶

	<p>種委員会活動の活性化 ⑥愛校心の育成</p>	<p>での校外学習の実施[高] a2)生徒会および文化委員会による近高祭(文化祭)の立案と実践[高] b)教科学習とクラブ活動の両立および自ら考え率先して行動する指導の徹底[中高] ⑤ a)生徒会による挨拶運動・SNS を利用した学校活動の紹介[中高] b)校則の見直し[高] ⑥a)近隣に評価される学校作り[中高] b)自校教育推進[中高]</p>	<p>と実施[高] a2)生徒会が主となって近高祭が文化的かつ全校生徒が思い出深い行事となるよう企画[高] b)教科学習とクラブ活動の両立および自ら考え率先して行動する指導の実践[中高] ⑤ a)生徒会執行部による朝の挨拶運動や校内の活動取材し、まとめた内容を SNS などを使って発信[中高] b)生徒・教員・保護者へのアンケートを実施し、学校長へ校則の見直し要望書の提出。生徒と教員の話し合いの場を設置[高] ⑥a)本校生に対する苦情などについて迅速な問題提起の上、学校全体で組織的に指導[中高] b)クラスグループ毎、年間計画による指導[中高]</p>	<p>の率先励行と各種学校行事に於ける率先行動が随所に見られた[中高] ⑤a)生徒会は様々な校内のコミュニケーションを経て、自校のことを調べ発信していくことにより、主体的な学びと連帯感の深化が見られた。そしてなにより、他の生徒が自分の学校のことをより良く知る機会となり、自校教育の深い学びへと繋がった[高] b)生徒会が様々なアンケートデータを元に分析し、意見をまとめて校則より良い改定に向けて問題提起を行った結果、以下の三点について人権的配慮から次年度は校則を変更することになった(1)男女の性別による髪の長さ規制の差をなくす(2)肌着など制服の下に着用するインナーについて色や柄の規制をしない(3)制靴(ローファー)については推奨品とし、制靴に痛みを感じる場合は、黒を基調とする他の靴での登校を認める[高] ⑥a)学年集会、HR 活動、サイバーキャンパスを通じて、生徒への問題提起・注意・指導を行うことにより、一人ひとりが大規模校に通う生徒としての自覚を持つ機会となった。その結果、全生徒が本校に対するクレームを自分事として受け止め、自己の行動の変革に繋がった。但し、雨天時学校周辺地域に於ける保護者による生徒送迎車両駐車に対する苦情について引き続き対策を講じる必要性有り[中高] b)年間計画のとおり実施できた[中高]</p>
<p>(3) 学習指導の徹底</p>	<p>①授業の質を高め、生徒の授業満足度を高める ②校内の全ての教育活動は大学・社会で活躍できる「後伸びする力」を身に付けた「グローバル人材の育成」を基本として実施する ③ ICT を活用した教育改革を推進し、近大附属の教育 method を確立し、目指す学習活動、学習評価の明確化をはかりながら、高度情報社会の中に生きる生徒の適応力とモラルの向上を目的とした教育を展開する ④新しい教育改革にも対応して、日々に於けるより質の高い教育活動を展開する ⑤学習過程の評価を実践・観点別評価の研究・実践</p>	<p>①a)iPad の利活用による新しい授業実践[中高] b)学園内附属学校教育研究会の実施[中高] c)授業アンケートの実施と自己分析[中高] ②a)iPad を利活用したe-ラーニングによる英語4技能の育成[高校] b)グローバル人材育成プログラムの実施[高校] c)エンパワーメントプログラムの実施[中高] d)アクティブラーニングの研究と採用[中高] e)年間計画に基づく TOEIC・TOEIC Bridge [高校]および TOEFL Primary[中学]の校内実施 f)年間計画に基づく海外語学研修・海外留学・国内研修[中高] ③a)授業・学校行事等高校生活に於ける様々な場面での iPad ・各種アプリの利活用および教員の創意工夫によるプロジェクト型学習・反転授業などによる授業改革の実施[中高] b)生徒の自主性・積極性の育成 [中高] c)情報ネット社会に於けるいじめ・人権侵害に係る年間計画による指導[中高] ④上記(1)の②及び(3)の①②③の内容を実践 [中高] ⑤教育課程検討委員会を設置し、学習指導要領適用に向けた教育課程を修正し、学習過程評価の定着および観点別評価の研究・実践に取り組む。</p>	<p>①a)下記③の(a)を指標 b)学園内附属学校教育研究会への参加 c)生徒の満足度80%以上 ②a)通信環境があれば「いつでも・どこでも」学習できることを周知し、指導教員は年間計画のとおり指導 b)UCLA で実施 c)年間計画で校内実施 d1)アクティブラーニングによる課外授業実施 d2)次期学習指導要領適用に向けた教科内での研究 e)年間計画で実施 f)年間計画で実施 ③a)教職員による iPad 利活用内容 b)生徒の取組み c)年間計画による指導実践 ④上記(1)の②及び(3)の①②③の内容に同じ [中高] ⑤学習指導要領適用に向けた教育課程修正に取り組み、学習過程評価の定着および観点別評価の研究・実践</p>	<p>① a)下記③の(a1)～(a4)のとおり b)近畿大学附属豊岡高等学校での附属教育研究会参加に向けて、資料作成を進めていたが新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった。 → 次年度は本校で開催予定 c)授業満足度(肯定的回答率) ・89.6% [高校] *授業はわかり易く工夫がされている【89.1%】 *授業・課題等で iPad やプロジェクター等が積極的に使用されていた【81%】 *授業・課題に於いて iPad やプロジェクター等で理解が深まった【78%】 *授業内容から興味・関心がわき、自ら学習しようとする気持ちが生じた【80.1%】 *教員は質問に的確に対応してくれる【91.9%】 *授業の進み方や内容(難易)はちょうど良い【87.4%】 *宿題(課題)の量や内容はちょうど良い【87.2%】 *総じて授業を真剣に受けている【93.8%】 ・87.9% [中学校] *毎回の授業の目標が明確に伝わっている【91.3%】 *声の大きさや話すスピードはちょうど良い【90.1%】 *白板(スライドを含む)はわかりやすく工夫されている【87.9%】 *宿題(課題)の量・内容はちょうど良い【88.4%】 *授業の進み方や内容(難易度)はちょうど良い【87.9%】 *授業によって興味・関心がわき、自ら学びたいと感じた【79.7%】 *授業内容に満足している【89.9%】 ②a) 英語5技能の総合的な育成を目指している。Cambridge University Press より Better Learning Partner の認定を受けた。これは約30名の教員が CELT-S 資格を有し、コミュニケーション・ランゲージ・ティーチングの実践が認められた成果である。民間の資格・検定試験の活用は継続する。 b)プログラムの実施そのものが取りやめとなったため、エンパワーメントプログラムへの参加奨励。 c)年間計画のとおり実施できた [中・高] → 次年度の継続実施を決定 d1)清教学園高等学校や愛徳学園高等学校など他校生徒との共同プロジェクトや野外活動を含めた2泊3日のディスカバリープログラムなど新たに他者と関わる課外活動を重視→時代とニーズにマッチしたアクティブラーニングによる課外授業を行うために、年度に応じて刷新を行う。 d2)教育改革推進室と各教科教育改革推進担当者が定期的にミーティングを開き、アクティブラーニングを含めた授業展開とその評価法の研究を活発におこなった e)予定通り実施できた→次年度も継続して実施する f1)中高一貫コース対象オーストラリア姉妹校研修・オープンパス語学研修、進学コース対象マルタ姉妹校研修、近畿大学入学予定者対象の3週間海外研修(個人単位・各国)、オープン3週間アイルランド研修を予定通り実施した。英語特化コースの中長期留学についても推奨実施。</p>

				<p>f2-1)シンガポール英語研修(中学校課程・28名)を実施【研修中のプログラム満足度・非常に満足 88.5%・やや満足 11.5%】→次年度も継続して実施する</p> <p>f2-2)ブリティッシュ・ヒルズ研修(中学校課程 28名)を福島県で実施[中学]【研修中のプログラム満足度・非常に満足 85.7%・やや満足 14.3%】→次年度も継続して実施する</p> <p>③a1) Apple 社から本校が Apple Distinguished School として 4 度目の認定更新を受け継続中である[2021-2024 2021.8 認定] [高校]</p> <p>a2)Apple Distinguished Educator に 6 名の教員が資格継続 [高校]</p> <p>a3)本校教員および学外教育関係者を対象に教育(IB 教育)を考えるイベントとして SET KINDAI を開催した。Session1 (IB 授業を体験する 7 つのワークショップ), Session2 (国際バカロレア機構 DLDP コーディネーターによる基調講演), Session3 (IB 教育の要素を作った授業作成の 7 つのワークショップ)を実施。Session1 肯定的評価 91.9%・Session2 肯定的評価 96.6%・Session3 肯定的評価 95.7% [中高]</p> <p>b1)文化祭に於いて自分で考え何かを作り出し展示・発表する【利活用の自由度を付与し、生徒もそれに応えている】</p> <p>b2)文理コース 2 年生が「課題研究 ポスターセッション&amp; Oral Presentation」を実施(12 月)。1 名が第八回高校生国際シンポジウムに参加した。→次年度も継続実施する</p> <p>c)SNS 講習会をオンライン実施[中 1]、インターネットモラル教室をオンライン実施[高 1]し、HR での指導→次年度も継続して実施する</p> <p>④上記(1)の②及び(3)の①②③の内容に同じ [中高]</p> <p>⑤教育課程検討委員会を中心に各群・コースにより、学習指導要領適用に向けた教育課程を修正した。教育改革推進室を中心に授業展開と学習過程評価(50%)の定着および観点別評価の研究・実践に取り組んだ。</p>
--	--	--	--	--

<p>(4) 進路指導の徹底 【但し、①については、中期的目標の(1)に記載する】</p>	<p>②特進クラスに於ける(難関)国公立大学志望者への進路指導の徹底と合格支援を行う ③各群・各学年・各教科担当者との連携を強化する ④生徒が大学進学後も意欲的に学びを継続できるよう適切な学部・学科を主体的に選択させる</p>	<p>②下記の③④を年間計画[高校] ③・年間計画に基づく指導[高校] a)特進クラスの群・学年・教科担当者の連携と指導力の強化 b)研修会や説明会を通じて生徒の目標達成の支援 c)過年度生への支援 ④・教員が国公立大学進学情報、在籍生徒の成績分析結果および志望状況に関する情報を共有化した上での細かな進路指導を実施[高校] また、生徒自身が将来像を描き進学目標を定められるよう、講演会や進学イベントを年間計画に基づき実施[高校]</p>	<p>②・合格実績 ③・年間計画に基づく実施 ④・年間計画に基づく実施</p>	<p>②・難関国立10大学・国公立大学医学科・大阪公立大学合格者数計61名(含過年度生)[北海道大学1名・東北大学1名・大阪大学13名・神戸大学11名・大阪公立大学31名・富山大学医学科1名・福井大学医学科1名・徳島大学医学科1名]熊本大学医学科1名【対前年度15名増加】 ・国公立大学合格者数(含過年度生)計164名【対前年度38名増加】 ③・年間計画に基づいて実施できた a)各種学外入試研究会への参加と情報収集と情報共有 b1)入試情報分析説明会[6月](高3年希望生徒・保護者対象)[約270名参加] b2)大学入試動向説明会[11月](高3年希望生徒対象)[140名参加] b3)共通テストリサーチに係る合同ホームルーム[1月](高3年希望生徒対象)[248名参加] c)過年度生への激励メッセージの記入[7月・12月] ④・年間計画に基づいて実施できた ・学内進路資料の作成 ・教員対象各種学外研究会内容の周知 ・高大接続およびキャリア教育各種体験型行事への生徒参加促進 ・『学びの記録』の生徒活用促進 ・キャリアパスポートの作成、回収、学年間・校種間の引継ぎ等についての周知 ・進路志望調査の実施[5月](高3年全生徒対象) ・進路志望調査の実施[6月](高1・2年生全生徒対象) ・進路適性検査「学びみらいPASS」の実施[7月](高1特進クラス全生徒対象) ・夢ナビライブ(模擬講義や教授との進路相談など、進路を考えるオンラインイベント)[7月・10月](高1・2年希望生徒対象)[370名参加] ・進路適性検査結果に係る教員対象説明会の実施[9月] ・一日看護師体験の実施[7月](高2・3年生希望生徒対象)[7名参加] ・高校生保育園職場体験の実施[夏期休暇中](高1・2年生希望生徒対象)[13名参加] ・進路志望調査の実施[9月](高2年生全生徒対象) ・進路志望調査の実施[10月](高1年生全生徒対象) ・大阪大学キャンパス見学会[7月](高1・2年希望生徒対象)[76名参加] ・福井大学教員(卒業生)による進学講演会[9月](高1・3年希望生徒対象)[85名参加]</p>
<p>(5) 健全な経営状況の維持</p>	<p>①事業活動収支差額の安定的な黒字化 ②受験者数の確保と定員の充足</p>	<p>①・ICT教育環境の整備を引き続き行い、全生徒が問題なくタブレット端末を利活用できるようにし、新たな整備のために、従来からの情報系保守・運用管理費用の削減を行う[中高] ②・安定的な収入を確保するため、生徒募集を強化し、受験者の確保、定員の充足に努める[中高]</p>	<p>①・決算での事業活動収支差額の黒字化 ②a)入学試験に於ける実質競争倍率 b)学則に於ける生徒定員の充足</p>	<p>①・経常収支としては黒字を維持したが、光熱水費・高校教室棟南側防音サッシ改修・ブルーコート(旧グリーンコート)改修・教室プロジェクター更改・教職員用パソコン更改等での支出が増加 ②a)入学試験に於ける実質競争倍率 高等学校 1.15倍 中学校 1.30倍 b)生徒定員を充足した[中高]</p>